

屋根工事業

和風の屋根にこだわり続ける職人集団

7-9 桜井瓦工業有限会社

わがまま」な日本建築を操る技能集団

桜井瓦工業は茨城県石岡市にある企業である。企業としての設立は昭和 53 年であるが、先祖代々瓦屋を営んでおり、その始まりは明治 20 年まで遡る。一步敷地内に踏み入ると、焼き上げる前の粘土素地から焼き上げた後の瓦、焼き上げるための窯、そしてインタビューを受けてくださった代表の櫻井仁博氏の後継者である櫻井茂幸氏自身が手がけた威風堂々とした生家の屋根が目飛び込んでくる。



櫻井氏が手掛けた生家の屋根

同社は、屋根材に関する業務全般を請け負っているが、特に屋根瓦の施工及び製造をメインとしている。瓦には和型（和風の瓦）と洋型（洋風の瓦）があるが、同社は和型を手がけている。

洋型瓦は工業製品化されており、工事のための施工技術がどんどん不要になってきているが、日本建築は真つすぐな屋根だけでなく、そりがたり、むくっていたり（逆に下に向けて曲がって下がる）するなど、ねじれている瓦同士をうまく組み合わせて曲線を形成しなければならない。ねじれからくる隙間をうまく組み合わせるための技術が必要である。さらに、単に曲線であるだけでなく、美しさを兼ね備えていることが求められる。同社は、そんな「わがまま」な日本建築に対して柔軟に対応していける技能集団なのである。

原理原則の理解と共通言語習得のため

ご自身も一級技能士である櫻井氏は、技能検定は「まず、営業するに当って、顧客に安心感を与えるための武器ということですね。一級技能士が製造・施工するというのは PR になります。」と明快に答えてくれた。また、「『カン』の部分は経験で身に付けなければならないのは間違いないですが、効率的かつ安全に作業を行うためには、原理を理解することが重要になります。

技能検定の学科を勉強する過程で、作業の要所の原理が理解できるようになります。」と語る。

また、1 つの家の屋根を作る場合、他業種（大工、左官、建築板金工、等）との協働になる部位も多い。「事業者同士で最高のものを作るべく連携する際には、お互いの共通言語、共通認識が不可欠になってきます。技能検定は職人同士の共通言語そのものなんです。」と櫻井氏は技能検定のもう 1 つの位置付けについて指摘する。共通言語を持ち合わせた最高の技能を持つ職人同士が協働で 1 つのものを作り上げる。最高の屋根ができて上がるのは容易に想像ができるだろう。

「見て学ぶだけ」を否定した訓練哲学

瓦職人の育成という、「学ぶより真似ろ（?）」、という言葉が想像されるが、櫻井氏はそれだけではないと話す。「『見て覚えろ』と言うだけでは時間がかかってしまう。早く技能を向上してもらうためには、『カンコツ』を見て覚えるにしても、原理原則を理解した上で見てもらう必要があるんです。そして、その原理原則を理解するために、技能検定の模擬課題を活用して練習する機会を提供しています。」同社ではまず技能検定の学科を勉強させ、その上で技能検定の模擬課題を与える。その際に先輩の技能検定合格者が徹底指導を行っている。

同社では、技能検定の受検資格が得られる最短のタイミングで受検することを入社時に目標として設定させ、合格するための指導を徹底している。

難しい現場にこそ呼ばれる会社を目指す

櫻井氏に、今後どんな会社にしていきたいかを聞くと、熟練職人らしい粹な答えが返ってきた。「規格品、大量生産物件ではなく、『難しい現場だからこそ桜井瓦工業に頼みたい。』という会社になりたいです。誰もが難しくて尻込みするような案件を増やしていきたいですね。」。熟練技能者は、案件が難しければ難しいほど腕がうずくのだ。

桜井瓦工業有限会社

- 業種：屋根工事業
- 住所：茨城県石岡市
- 代表者：櫻井仁博
- 設立：昭和53年
- 従業員：9名
- 技能士4名(延べ19名)

技能士へのインタビュー

櫻井 茂幸氏（35 歳） 一級かわらぶき技能士

京都の私塾で学び熟練技能者を目指す

1 級かわらぶき技能士である櫻井氏は、第 25 回技能グランプリの建設部門（かわらぶき職種）で優勝した実績がある。

櫻井氏は、瓦の製造から施工までを担う同社の若きリーダー的存在である。

櫻井氏は、高校卒業の直前に、テレビで全国から瓦葺師になりたい若い人材を受け入れている京都の麓（いらか）技塾という私塾の存在を知り、塾長の下で学びたいと思った。すぐさま行動に移し、卒業後すぐ 4 月から、3 年間麓技塾で学んだ。麓技塾の兄弟弟子には、櫻井氏が優勝した第 25 回技能グランプリの 3 位入賞者もあり、櫻井氏は高い志と技能を持つ生涯の職人仲間と知り合ったと振り返る。「家業を継ぐかどうかはあまり深くは考えていなかった。」と言う櫻井氏であったが、麓技塾を卒業後すぐに実家の桜井瓦工業で働き始めた。

屋根に美しい曲線を施すことが魅力

麓技塾で意識と技能を高めた櫻井氏は、「瓦職人として少しでも塾長、兄弟弟子に近づきたいと思っていました。」と当時を振り返る。そんな櫻井氏にとっての技能の魅力とは何かを聞いた。

「日本建築の屋根は、曲線が含まれていて、一つ一つの曲線が個性を持っているんです。美しい曲線を描いた時の喜びはとても大きいですね。技能は、美しい曲線を描くためのものだと思います。」と熱く語ってくれた。曲線へのこだわりは強い。ただし、自分のこだわりをそのまま形にすることははないという。「直線は誰が見ても直線ですが、曲線は人によって好みが分かります。お客様が求める曲線と、自分の美意識が追求する曲線を、対話によってうまく調整させていくプロセスが仕事の楽しみの 1 つですね。」と言う。櫻井氏は、自分のこだわりを出し過ぎるのは好きではないそうだ。個人的には緩やかな曲線が好みだそうだが、個性を出し過ぎるのではなく、シンプルではあるが周囲の環境に馴染む自然な美しい曲線を職人として追及しているという。

技能検定は後輩指導のための手段

櫻井氏は 1 級かわらぶき技能士であるが、技能検定を受検しようと考えた動機は何だったのか。その動機を「自分の後輩に技能を伝えるための手段と位置付けています。後輩に技能検定受検を勧めるにしても、指導する際に自分が技能検定に合格していないと説得力がないですね。また、基礎的な言語や原理原則などを踏まえた上で指導ができるようになるという利点もあります。」と語ってくれた。社内のリーダー的存在である櫻井氏ならではの位置付けであると言える。

また、「技能検定の 1 級を持っていないければ技能グランプリには出場できません。技能グランプリに出ることによって、同じ目的を持った熟練技能者と知り合い、刺激し合うことができます。周りに同志を作ることができるきっかけにもなっています。」と櫻井氏は言う。職人とは、自らの技を究める求道家であることは間違いないが、同じ高みを目指す者同志でしか分からない世界があることを櫻井氏は垣間見たのである。

誰にもできない屋根施工に携り続けたい

高い技能を持ち、同志も多い櫻井氏に、今後の目標を聞いた。「櫻井さんでなければできないから、櫻井さんをお願いしたい。という難易度の高い屋根施工に携わりたいですね。また、自分だけでなく自社の技能士にもそう思ってもらいたいと思っています。そういう人材が集まらなければ、分業が必要な現場で最高の質の仕事はできません。」

非常に高い目標掲げる櫻井氏であるが、その目標を高く感じさせない熟練技能者としての風格がすでに備わっていた。



自身で製造した瓦と櫻井氏